

『ラフマニノフの思い出』出版のお知らせ

ラフマニノフは、チャイコフスキーと並んで最も人気のあるロシアの作曲家の1人です。そのラフマニノフとの交流や思い出を語る回想録が出版されます。

ここに収められた回想は、従妹のソフィヤ・サーチナや作家のマリエッタ・シャギニャンなどの筆によるもので、ラフマニノフ研究の最初期から資料としてしばしば用いられて来ました。これまで論文などで部分的に紹介されることはありましたが、書籍での全文の翻訳は本邦初です。と言っても小難しい研究書では決してなく、家族やラフマニノフを親しく知る芸術家が、その人間的な横顔を語ります。偉大な音楽家の生涯に新たな光を当てる資料としても、ロシア革命前後の時代を生きた人々の生の証言としても、当時の芸術文化や音楽生活を知る上で、大変貴重な資料です。

ラフマニノフの音楽が好きな人は、本人がどのような人だったか知りたいと思うのではないのでしょうか。作品がどんなに素晴らしくても、人間的には理解し難い芸術家もいますが、ラフマニノフは人気や名声に溺れることなく、勤勉で高潔ながら温かい人柄で、皆に尊敬され愛されました。1873年生まれ、《交響曲第1番》の失敗と挫折、《ピアノ協奏曲第2番》の成功、亡命と欧米での演奏活動…、そういった人生の記録はどこでも簡単に読むことができますが、これらの出来事の陰にある様々な逸話というのは、ラフマニノフを身近に知っていた人々でなければなかなか知り得るものではなく、またこれまでこのような本は殆どありませんでした。

寡黙で控えめ、冗談好きで寛大、聴衆から絶大な支持を受けながらも時に自分の才能を疑い、不安に苛まれる〈人間〉ラフマニノフの姿とその音楽を生んだ背景が、様々なエピソードから鮮やかに浮かび上がります。

サーチナやシャギニャン以外にも、ゴリデンヴェイゼル、ブーニン、ネジダノワ、メトネル他、同時代の著名なロシアの芸術家たちによる十二編を収録しました。

監訳＝沓掛良彦

翻訳＝平野恵美子・前田ひろみ訳

翻訳協力＝高橋健一郎

出版社：水声社

判型：A5判

予価：4500円＋税

発売：2017年7月17日

全国どこの書店でもお求めになれます。お近くの書店や、ネットショップでご予約・ご注文ください。

(以下は、小さい文字で下に入れていただければと思います↓)

※ただし amazon には、2014年5月以降、同社が再販契約を遵守し、定価販売を励行するまで出荷を停止しておりますので、同サイトではお求めになれません。

ソフィヤ・サーチナ
ボレスラフ・ヤヴォルスキー
オリガ・コニュス
リュドミラ・ロストフツォワ
アレクサンドル・ゴリデンヴェイゼル
イワン・ブーニン
アントニーナ・ネジダノワ
ナデジダ・サリナ
マリエッタ・シャギニャン
イリーナ・シャリヤーピナ
ボリス・シャリヤーピン
ニコライ・メトネル



ラフマニノフの 想い出

監訳

沓掛良彦

翻訳

平野恵美子
前田ひろみ

水声社